

常磐公園から分かる「昔の人たちの気持ち」とは？

常磐公園には、たくさんのお碑があります。

写真①は「小熊 秀雄（おぐま ひでお）詩碑」です。小熊秀雄（写真②）さんの詩が載っています。

小熊秀雄さんは、1901年〜1940年まで生きた人です。二十代の約七年間、新聞記者として旭川に住んでいました。詩の他にも童話や漫画、人形劇の台本などを書いていました。今は「小熊秀雄賞」という賞があります。**この賞は「詩人としては絶対に取りたい賞」だそうです。**

写真③は「草分碑」です。常磐公園の上川神社頓宮の右手にあります。「草分け」とは「草深い未開の土地を切り開く」という意味です。この碑は、1915年（大正四年）に建てられたそうです。1898年（明治三十一年）、旭川に鉄道が開通する以前、徒歩や馬を使って旭川に移り住んだ人たちが、建てたそうです。この碑は、神居古潭の石を掘ったものです。

「草分碑」の左にある「副碑（遺芳千載）」（写真④）には、旭川の開拓に携わった二百六十名以上の私たちの名前が書いてあります。

私たちは「小熊 秀雄詩碑」から、旭川にゆかりのある有名な詩人がいたことを知りました。また草分碑の副碑である「遺芳千載」から、旭川の土地を切り開くために努力していた人たちがいたことを知りました。

この他にも、常磐公園にはたくさんのお碑があります。また常磐公園を散策しながら、どのような人たちが、どのような思いで旭川の地に住んでいたのかを想像してみると、この公園のことがもっと好きになるはずですよ。



【写真①】 小熊秀雄詩碑



【写真②】 小熊秀雄さん
常磐公園内 旭川文学資料館所蔵



【写真③】 草分碑



【写真④】 副碑（遺芳千載）

ボートと千鳥ヶ池

常磐公園には千鳥ヶ池があります（写真⑤）。千鳥ヶ池は昔の農家の人たちが掘った池です。1913年に旭川市が寒くなり、農家の人たちが大切に育てていた作物が育たなくなり、生活が苦しくなっていました。そこで、旭川市が池を掘るといって労働を与え、農家さんの暮らしを助けました。このようなことから千鳥ヶ池が誕生しました。**つまり、この池は、昔住んでいた人たちの「頑張り」の形だと言えます。**

常磐公園にはボートもあります（写真⑥）。昔の人は千鳥ヶ池でボートに乗って楽しい時間を過ごしていたようです（写真⑦）。また、昔はボート屋は二軒以上あったそうです。

このことから昔の人たちは、ボートに乗る時間を大切にしていたのだと思います。今でも、ボートに乗ることが出来ます。**昔から大人も子供も楽しんでいたものなので、これからも大切にしていきたいです。**



【写真⑤】 千鳥ヶ池



【写真⑥】 ボート



【写真⑦】 千鳥ヶ池でボートに乗っている様子（昭和33年）
【知らなかった、こんな旭川】NHK旭川放送局編著 中西出版

日本都市公園百選

常磐公園は1989年に都市公園百選に選ばれました。その記念碑「都市公園百選プレート」（写真⑧）が公園にあります。常磐公園碑のある正面入口に設置されています。

都市公園百選に選ばれた公園は、その地域に住む人たちが大切にしてきた公園ばかりです。都市公園百選に選ばれている公園は北海道に四つしかありません。このことから、常磐公園は、百年以上の間、旭川に住む人たちに大切にされてきたことが分かります。

公園ができたころは、旭川に住んでいる人たちが一齊に集まれる場所がありませんでした。「みんなで集まれる場所を作りたい」という想いから、当時の人たちは、旭川を中心にこの公園を作ったのかもしれません。



【写真⑧】 都市公園百選プレート

編集後記

今回の常磐公園調査で、常磐公園の歴史についてたくさん知ることができました。最初は、大きいだけの公園だと思っていましたが、調べていくうちに、たくさんの人たちの想いが詰まった公園だということに気付くことができました。

まだまだ、分からないことだらけなので、もっともっと常磐公園のことについて調べていきたいと思っています。

常磐公園のことを知れば知るほど、この公園を大切にしていきたいという気持ちが高まってきました。ですから、いろいろな人たちに、常磐公園のことを知ってもらいたいです。

この新聞を読んで、「常磐公園に行きたい」という気持ちになってもらえたら嬉しいです。また、常磐公園をきっかけに、旭川市のことを更に好きになってほしいです。